

小平市史料集 近現代編 第三集

小平市関連新聞記事集 上巻

目次

第一章 昭和初期の村（一九二六～三六年）

第一節 自然と人

一 自然

二 信仰

第二節 農業

第三節 政治―地域の枠組み―

一 国政

二 府政

三 村政

【トピック①】 小平の小学校高等科併置問題

第四節 多摩の軍事施設

第五節 開発と経済

第六節 教育・文化

一 小・中学校

二 文化

第七節 生活

一 貧窮

二 医療・衛生

第八節 事件・世相

第二章 戦時体制下の町づくり（一九三七～四五年）

第一節 自然と人

一 自然

二 信仰

第二節 農業

一 篤農家

二 農作物

第三節 政治―地域の枠組み―

一 国政

二 府政と都制案

三 村政から町制へ

第四節 戦争と民衆

一 民衆の動き

二 戦死者への想い

第五節 町づくり

第六節 教育・文化

一 小学・中学・高女

二 青年学校

三 大学

第七節 生活

一 物資の統制

- 二 活動する青年と女性
- 三 医療・衛生
- 第八節 世相・事件

〔下巻目次〕

第三章 戦後復興期と町の動き（一九四五～五四年）

第一節 自然と人

- 一 自然
- 二 信仰

第二節 農業

- 一 篤農家
- 二 農作物

第三節 政治―地域の枠組み―

- 一 国政
- 二 都政と首都圏整備
- 三 町政と町村合併の動き

【トピック②】 町村合併（一九五〇～五八年）

第四節 平和と基地問題

【トピック③】 米軍機墜落事故

第五節 町づくり

【トピック④】 小平霊園

第六節 教育・文化

- 一 小・中学校
- 二 高校
- 三 大学
- 四 障がい者支援機関
- 五 社会教育と文化

第七節 生活―貧しさからの脱却―

- 一 生活の改善
- 二 女性の自立
- 三 医療・福祉

第八節 事件・世相

- 一 事件
- 二 世相

第四章 高度成長下での町から市へ（一九五五～六〇年）

第一節 自然と人

- 一 自然
- 二 信仰

第二節 農業

第三節 政治―地域の枠組み―

- 一 国政
- 二 都政と首都圏整備
- 三 町政から市政へ
- 四 自治と住民運動

第四節 平和と基地問題

第五節 町づくり

【トピック⑤】 武州鉄道敷設への動き

第六節 教育・文化

一 小・中学校

【トピック⑥】 学童の交通事故

二 高校

三 大学

四 障がい者支援機関

五 社会教育

六 文化

第七節 生活―ゆたかな生活を求めて―

一 生活の改善

二 医療・福祉

三 環境問題

第八節 事件・世相

一 事件

二 世相

解題

細目次

第一章 昭和初期の村（一九二六～三六年）

第一節 自然と人

一 自然

- 1 降雹で打ちおとされた桑葉 一九二七年五月一七日 東日（東京日日新聞）
- 2 降雹で春蚕放棄の大被害 一九二七年五月一八日 東日
- 3 降雹惨害に低利救済資金 一九二七年五月二一日 東日
- 4 降雹被害救済融資 一九二七年八月一三日 東日
- 5 また降雹被害 一九二八年七月四日 東日
- 6 砂塵吹きまくる 一九二九年二月二〇日 東日

二 信仰

- 7 御岳山で大賭博 一九二七年四月八日 東日
- 8 くらやみ祭で怪我人続出 一九二七年五月七日 東日
- 9 青年団の鳴虫奉納 一九二七年六月二一日 東日
- 10 春蚕へ春霜の前兆 一九二八年四月二五日 東日
- 11 荒れるくらやみ祭 一九三一年五月五日 東日

第二節 農業

- 12 寒波で茶樹枯死 一九二七年四月二八日 東日
- 13 石灰使用の養蚕に警告 一九二七年六月九日 東日
- 14 一割増の西瓜 一九二七年八月一三日 東日
- 15 小平へ養蚕資金九〇〇円 一九二七年一月一六日 東日
- 16 栗の名産地づくりへ 一九二八年四月二二日 東日
- 17 小平の蚕、五齡 一九二九年六月九日 東日
- 18 条桑飼育の可否 一九三〇年六月一〇日 東日
- 19 小平へ四万九千円の応急資金 一九三〇年七月一二日 東日
- 20 北多摩郡の麦酒麦の出荷 一九三〇年八月二三日 東日
- 21 害虫くり虫ドイツへ輸出 一九三〇年十一月二一日 東日
- 22 くり虫繭大人気 一九三〇年十一月二九日 東日
- 23 西瓜を都の名産に 一九三〇年十一月二九日 東日
- 24 小平青年団粟献上 一九三一年二月一日 東日
- 25 小平青年団主催甘藷品評会 一九三一年一月一日 東日
- 26 小平村の農作物いろいろ 一九三三年一月二九日 東日

第三節 政治―地域の枠組み―

一 国政

- 27 立川で民政党と政友会激突 一九二七年七月九日 東日
- 28 初の普選、三多摩各派の動き 一九二八年二月二〇日 東日
- 29 三多摩の粛正選挙情况 一九三六年二月一二日 東日
- 30 小平村・小川順之助総選挙断念 一九三六年一月二六日 読売

二 府政

- 31 都制案三多摩除外と国立公園 一九二七年一月九日 東日
- 32 政争にまきこまれた農会長人事 一九二七年五月一四日 東日
- 33 東京市独立案 一九二七年五月二四日 東日
- 34 東京市と隣接町村合併 一九二七年五月二五日 東日
- 35 東京市へ三多摩包含を陳情 一九二七年六月二二日 東日
- 36 ふたたび三多摩包含を決議 一九二七年一月二四日 東日

- 37 またまた三多摩包含を陳情 一九二八年五月八日 東日
- 38 三多摩郡は東京市案に断固反対 一九二九年三月一四日 東日
- 39 三多摩を包含に向けた住民大会の開催 一九二九年一〇月二五日 東日
- 40 三多摩包含は無理か 一九二九年一月二四日 東日
- 41 八王子市は東京市独立に断固反対 一九三〇年九月二八日 東日
- 42 八王子を中心に新県設立運動を 一九三〇年十二月七日 東日
- 43 東京市独立案に猛反対の三多摩郡 一九三一年三月六日 東日
- 44 三多摩郡を切り離すな 一九三一年三月一七日 東日
- 45 三多摩を包含した都制実現か 一九三一年三月二六日 東日
- 46 東京市は隣接する町村を合併 一九三一年四月一九日 東日
- 47 東京市からの切り離しに反対 一九三一年四月二四日 東日

三 村政

- 48 普選での小平村議選 一九二九年四月二五日 東日
- 49 小平村陪審員決まる 一九三〇年一月二一日 東日

【トピック①】小平の小学校高等科併置問題

- 50 部落総出で小学校高等科の設置場所を検討 一九二八年三月一八日 東日
- 51 小学校移転場所めぐって村民大会が開かれる 一九二八年五月一日 東日
- 52 小学校高等科併置問題の飛沫を受ける児童 一九二九年一月一七日 東日
- 53 小学校高等科併置問題に対する東京府の見解 一九二九年一月十八日 東日
- 54 小学校高等科併置問題の背景には複雑な部落間関係 一九二九年一月二〇日 東日

- 55 代用教員を雇って「寺子屋」開始 一九二九年一月二二日 東日
- 56 東京府は「寺子屋」に困惑 一九二九年一月二三日 東日
- 57 東京府は「寺子屋」の解散を命令 一九二九年一月二七日 東日
- 58 東京府の「寺子屋」解散命令に抵抗 一九二九年二月一日 東日
- 59 「寺子屋」解散へ東京府の説得 一九二九年二月一〇日 東日
- 60 近隣他村小学校長の説得で「寺子屋」問題は解決へ向かう 一九二九年三月一五日 東日

第四節

多摩の軍事施設

- 61 選挙を前に部落間の軋轢が激化、「寺子屋」再開へ 一九二九年四月三日 東日
- 62 立川に初の国際飛行場実現か 一九二七年四月一七日 東日
- 63 立川は臨時、国際飛行場は羽田へ 一九二七年五月二日 東日
- 64 徴兵逃れの神社で祈祷者検挙 一九二七年五月一九日 東日
- 65 立川飛行隊官舎に亡霊や幽霊 一九二七年七月二四日 東日
- 66 陸軍のオートバイで小平村民死亡 一九二七年一月一五日 東日
- 67 道路に飛行機の滑走路 一九二八年四月二十八日 東日
- 68 立川へ陸軍航空本部付けの気象班 一九三一年三月二九日 東日

第五節

開発と経済

- 69 西武と武蔵野鉄道の不仲 一九二七年四月六日 東日
- 70 商科大学予科小平へ移転計画 一九二七年四月一五日 東日
- 71 立川起点の環状線の計画 一九二七年四月二一日 東日
- 72 西武電車も立川へ 一九二七年六月一九日 東日
- 73 箱根土地の斡旋で商大移転 一九二七年七月一四日 東日
- 74 三多摩へ電話架設工事 一九二七年九月一三日 東日
- 75 小平へ乗合自動車路線 一九二七年一月二四日 東日
- 76 商大の小平移転 一九二八年一月一九日 東日

77	目黒から府中へ競馬場	一九二九年三月一日	東日
78	三行の合併で北多摩銀行	一九二九年四月二十四日	東日
79	田無町に東大農学部農園移転	一九三〇年五月一七日	東日
80	小平村鳥瞰図	一九三三年八月八日	東日
81	経済更生指定村に小平村が加わる	一九三四年三月三〇日	東日
第六節 教育・文化			
一 小・中学校			
82	理想を揚げ明星中学開校	一九二七年三月二日	東日
83	高女の運動会の様子	一九二七年十一月八日	東日
84	高女で野菜教育	一九二七年一月二十五日	東日
85	中学校入試撤廃か	一九二七年二月八日	東日
86	高女の学芸会のプログラム	一九二九年二月八日	東日
87	小学児童の長期欠席	一九三〇年七月一〇日	東日
88	就職は職工と月給取りを志望	一九三一年二月一日	東日
89	府立第二中学の入学試験	一九三一年三月六日	東日
90	中学入試問題	一九三一年三月一二日	東日
二 文化			
91	小平二小で映画	一九二八年三月九日	東日
92	読売新聞に「府下版」新設	一九三〇年一月五日	読売
第七節 生活			
一 貧窮			
93	下がる教員の給与	一九三〇年八月五日	東日
二 医療・衛生			
94	組合病院設立に反対	一九二八年三月六日	東日
95	小平に天然痘	一九二八年三月一八日	東日
96	昭和病院の予算の割当	一九二八年四月二四日	東日
97	昭和病院の建設	一九二八年四月二七日	東日
98	昭和病院の規約草案	一九二八年五月一日	東日
99	昭和病院竣工	一九二八年一〇月二日	東日
100	精神病院建設に反対同盟	一九二八年一〇月二四日	東日
101	清瀬村へ結核療養所	一九二九年三月一四日	東日
102	結核療養所建設に反対	一九二九年三月二八日	東日
103	昭和病院全焼	一九三〇年一月一八日	東日
104	昭和病院再建	一九三〇年五月二十日	東日
第八節 事件・世相			
105	小金井桜は格別のながめ	一九二七年四月一五日	東日
106	石炭酸の臭いと小金井の桜	一九二七年四月一九日	東日
107	厭世自殺牛にも波及か	一九二八年三月二七日	東日
108	玉川上水で厭世自殺	一九二八年四月二二日	東日
109	世の中がいやになり自殺	一九二八年四月二六日	東日
110	不況で花見客減少	一九三〇年四月二四日	東日
111	色目は明るい着物	一九三一年一〇月二一日	東日
112	好況で金齒も高騰	一九三二年九月一日	東日

第二章 戦時体制下の町づくり（一九三七～四五年）

第一節 自然と人

一 自然

- 113 御嶽神社の御神水で雨乞祈願
- 114 村民総出の雨乞祭
- 115 日照りで農作物、甚大な被害
- 116 一ヶ月以上も雨降らず
- 117 小平方面も出水被害甚大
- 118 小平方面も逐次減水する
- 119 雨乞いの御岳山も水涸れ
- 120 鳥獣撃退の秘伝公開
- 121 小平などの雑木林に茸豊作

二 信仰

- 122 青梅のダルマ市賑う
- 123 近郷からの人出で賑うくらやみ祭り
- 124 田無の暮市の賑い
- 125 豊作を願う御嶽神社の太占祭
- 126 産めよ殖やせよと神社参詣

第二節 農業

一 篤農家

- 127 小平の甘藷品評会一等小山金蔵氏
- 128 小平の農産物品評会一等浅見九一郎氏
- 129 出征軍人家族に小作料減免分を寄贈
- 130 土の父、関根勝五郎氏を表彰
- 131 小平農会篤農家を表彰
- 132 小平などの優良商店を知事等が表彰
- 133 決戦下のイモ増産競争に小平では関根、鈴木の両氏
- 134 イモ増産の優良者は小平の関根氏
- 135 馬鈴薯の競作、驚異的成績で小平の関根氏
- 136 北多摩郡下の農民にイモ名人 関根、鈴木両氏が秘訣伝授

二 農作物

- 137 馬鈴薯の食糧増産は関根氏
- 138 小平からはトマト、キュウリ、ナスを出荷
- 139 増産推進の小平村
- 140 小平の甘藷名人鈴木氏、虎の巻を公開する
- 141 優良種牛を米国から購入
- 142 ビール麦を村山駅で出荷
- 143 四十年来の早魃で梨も大被害
- 144 日中戦争で「練馬大根」好況
- 145 北多摩郡下から樺太へ馬鈴薯を出荷
- 146 石灰肥料不足で桑園の危機
- 147 肥料も蔓返しも不要で甘藷増産
- 148 戦時下の肥料不足
- 149 甘藷豊作も貨車輸送できず

第三節

一 国政

150 小平農会で軍用兎供出 一九三九年一月五日 東日
 151 北多摩郡下の収繭量は一戸平均百貫 一九四〇年八月七日 東日
 152 新体制下で農村の協同体化 一九四〇年八月八日 東日
 153 北多摩郡、新たに木炭生産 一九四〇年八月一四日 東日
 154 田無地方から軍部に早漬大根を供出 一九四〇年一月一九日 東日
 155 小平村食糧増産に青壮年層を動員 一九四一年二月二日 東日
 156 小平の蔬菜栽培に学生動員 一九四二年一月三十一日 東日
 157 報徳社丸山式栽培法でイモの増産 一九四三年二月一七日 毎日
 158 小平イモ大增収 一九四三年八月七日 毎日
 159 戦時下、イモは多収穫品種へ切り替え 一九四三年二月二五日 毎日
 160 イモ供出、前渡金で促進 一九四四年一〇月一五日 毎日
 161 小平町、堆肥増産に老人子供も励む 一九四四年一月二四日 毎日

162 小平村の小野熊太郎、衆院選へ出馬断念 一九三七年四月一四日 東日
 163 翼賛政治下の衆院選情勢 一九四二年五月一日 東日
 164 翼政協非推薦の中村氏落選 一九四二年五月二日 読売

二 府政と都制案

165 小金井に続き東村山も町制 一九三七年二月五日 東日
 166 武蔵野町を中心に軍需工場主体の都市計画 一九三八年六月一四日 東日
 167 内務案を否定し三多摩と区部を分断する都制連盟案 一九三八年八月二六日 東日
 168 木戸内相も三多摩除外に近いものか 一九三九年六月一日 読売
 169 小平に隣接する国分寺が町制施行 一九四〇年二月一六日 東日
 170 武蔵野都市計画に小平など新たに四ヶ村が加わる 一九四〇年四月一七日 東日

171 躍進する立川に市制実現 一九四〇年一月六日 読売
 172 武蔵野の近代都市計画 一九四〇年一月一〇日 読売
 173 武蔵野景趣を残す緑地帯計画 一九四二年三月一七日 読売
 174 東条声明で東京市独立案破綻 一九四二年六月一三日 読売
 175 小平、東村山、久留米、清瀬、統合の都市計画 一九四二年七月一二日 東日
 176 三多摩主張の都制案にまとまる予想 一九四二年九月一五日 読売
 177 都議会議員は翼壮団員より選出すべし 一九四三年一月二八日 毎日
 178 大東亜の首都、東京都誕生へ 一九四三年四月一六日 読売
 179 東京都制によせる人々の想い 一九四三年六月三〇日 読売
 180 都議選の調整 一九四三年八月二五日 毎日
 181 田無署が武蔵野署になり、やがて移転 一九四四年四月二三日 読売

三 村政から町制へ

182 小平村助役詮衡で府と対立 一九三七年二月二一日 東日
 183 小平村助役詮衡は一時休戦 一九三七年三月二日 東日
 184 小平村助役詮衡で三者対立 一九三七年三月九日 東日
 185 小平村長小川良助氏死去 一九三七年三月一二日 東日
 186 小川良助氏逝去で北多摩郡農会長の後任問題 一九三七年三月一二日 東日
 187 小平後任村長に前府議小野熊太郎氏か 一九三七年三月一三日 東日
 188 故小川良助小平村長に弔慰金 一九三七年三月一三日 東日
 189 小平村、助役詮衡同様に後任村長でも紛糾 一九三七年三月一六日 東日

第四節

戦争と民衆

一 民衆の動き

204	決戦下での小平町出発	一九四四年二月二日	読売
203	税金完納し小平村に町制施行	一九四四年一月二八日	毎日
202	紀元節に小平町が誕生	一九四四年一月二五日	読売
201	小平村、町制施行を陳情	一九四三年十二月一日	毎日
200	小平村議に翼賛候補外の馬場氏当選	一九四二年五月二二日	東日
199	小平村翼選候補に對抗し農会副会長が出馬	一九四二年五月一五日	東日
198	小平村翼壯団は、細田団長を筆頭に模範選挙運動	一九四二年五月三日	東日
197	翼賛選挙を機に銃後の体制をかためる	一九四二年三月二九日	東日
196	小平の多摩農村文化協会で全村新体制確立へ	一九四一年二月一九日	東日
195	小平村後任村長溪氏で一段落か	一九四〇年六月二〇日	東日
194	小平村警防団結成式	一九三九年四月一五日	東日
193	小平村陪審員抽選で決する	一九三七年一月二三日	東日
192	小平村議選社大党候補出馬で活気を呈す	一九三七年五月六日	東日
191	小平村長選のしこりで助役問題も難航	一九三七年三月二六日	東日
205	中島飛行機製作所の騒音で自由学園は移転か	一九三七年一月三一日	東日
206	小平村、防空へ鉄壁陣を張る	一九三七年九月一八日	東日
207	南京陥落で旗・提灯行列で歓喜、商店街の大売出し	一九三七年十二月八日	東日
208	小平から渡満、少年義勇軍に参加	一九三八年六月一六日	読売
209	少年義勇軍の満州活動報告	一九三八年八月五日	読売
210	立川、小金井、武蔵野など工業地帯で小学生激増	一九三九年五月二四日	東日
211	健康をそこねる軍需工場勤めをさける	一九四〇年三月九日	東日
212	スパイを相互監視	一九四〇年六月一五日	東日
213	貯蓄報国運動の奨励	一九四〇年八月四日	東日
214	北多摩郡方面委員に女性進出	一九四一年二月二〇日	東日
215	町村常会のあり方を検討	一九四一年二月二三日	東日
216	勤労青年の精神修養にみそぎ練成	一九四一年八月五日	東日
217	臨戦体制にふさわしい警防団を	一九四一年九月七日	東日
218	小平在住のインド志士、インド独立軍と日本軍の協力を唱える	一九四一年十二月六日	東日
219	総選挙に備え翼壯団結成準備	一九四二年二月二六日	東日
220	質実剛健な勤労奉仕を願う	一九四二年三月一八日	読売
221	靖国大祭で一億黙祷	一九四二年四月二四日	東日
222	府翼壯団、戦時態勢に積極的援助	一九四二年五月一四日	東日
223	小平小野病院などで対スパイ防衛演習実施	一九四二年七月一六日	東日
224	小平などでイモ買出部隊を翼壯団が監視、撲滅	一九四二年七月二二日	東日
225	小平へ神奈川から少年通信兵校が移転	一九四二年一〇月二二日	東日
226	北部農会、食料買出部隊への横流しを統制	一九四二年一〇月二三日	東日
227	小平警防団、決戦に備え血液型を登録	一九四三年六月二七日	読売
228	都下に重要軍需工場が疎開	一九四三年十一月一四日	毎日
229	小平などで隣組を結成	一九四四年二月二日	読売
230	田無などでも野菜などの買出部隊を締出し	一九四四年四月五日	毎日
231	小平スイカの閘栽培を厳しく監視	一九四四年四月一日	毎日
232	武蔵野署を核に配給挺身隊を結成	一九四四年九月二〇日	読売

233 三多摩から帝都へ野菜輸送の貨車を運行 一九四四年一〇月四日 毎日
234 サイパンなどからB 29 来襲、焼夷弾を投下 一九四四年一月二八日 毎日
235 学童に至るまで罹災者救護に戦友愛 一九四五年三月一五日 毎日
236 地方都市爆撃の教へるもの 一九四五年八月九日 朝日

二 戦死者への想い

237 小平の親子二代名譽の戦死 一九三七年一月二五日 東日
238 兄の仇はオレが討つ 一九三八年九月一日 東日
239 英霊の公葬に無駄な冗費 一九四〇年一月六日 東日
240 論功行賞に家中で感泣 一九四〇年四月二七日 東日
241 遺志を受けつぐ戦争未亡人 一九四二年九月二三日 東日
242 光栄の受勲 一九四三年三月四日 毎日
243 残ったのは女ばかりだがお国に尽す 一九四三年一月二一日 毎日
244 兄の戦死後、弟も軍人志願 一九四三年九月二六日 読売
245 小平町で戦死者の公葬 一九四四年一月一七日 読売

第五節

246 町づくり 一九三七年一月一三日 東日
247 狭山丘陵にオリンピック村の誘致陳情 一九三七年三月二六日 東日
248 小平の土地周旋で詐欺 一九三七年七月一八日 東日
249 小金井ゴルフ場敷地問題、地主と和解 一九三七年一〇月二日 東日
250 ワルター・ヘーゲン氏設計の小金井ゴルフ場竣工 一九三八年一〇月一二日 東日
251 中央線の複線工事でスピードアップ 一九四〇年四月六日 東日
252 病院施設は清瀬村などへ 一九四二年九月一三日 東日
253 勤労者に人気、田無の営団住宅

第六節

教育・文化

一 小学・中学・高女

254 小平の小学校で女子団が繭の品評会 一九三八年八月二五日 東日
255 時局下の小学校で柔・剣道正科に 一九三九年二月一四日 東日
256 地元優先の中学入試の実施を 一九三九年一月二八日 東日
257 学校訪問記―八王子中学・武蔵野女子学院 一九四一年一月二三日 読売
258 学校訪問記―府立二商・府立第四高女 一九四一年一月二四日 読売
259 学校訪問記―府立織染校、玉川学園 一九四一年一月二五日 読売
260 学校訪問記―明星中学、町田高女 一九四一年一月二六日 読売
261 学校訪問記―府立農林学校、明星学園 一九四一年一月二九日 読売
262 学校訪問記―関東中学、府立機械工業校 一九四一年一月二九日 読売
263 学校訪問記―明星学園高女、府立第九高女 一九四一年一月三〇日 読売
264 学校訪問記―府立農蚕校、立川高女 一九四一年二月一日 読売
265 学校訪問記―昭和第一工業学校、実践女学校 一九四一年二月二日 読売
266 学校訪問記―府立二中、府立十九中、東京体操音楽高、藤村高女 一九四一年二月四日 読売

267 尋常小学校から国民学校へ 一九四一年四月一日 東日
268 都下中等学校連合演習はじまる 一九四一年一月二九日 東日

269 三多摩地方へ区部の学童が疎開 一九四四年八月三日 毎日

二 青年学校

270 小平青年学校、明後年度から無休学制へ 一九三七年七月一三日 東日
271 小平青年学校で軍事教練 一九三七年一〇月二日 東日
272 小平青年学校で出征軍人慰問農園を開園 一九三九年四月二七日 読売
273 府下の青年学校生、青年学校大会に参加 一九三九年九月二〇日 東日

273 小平青年学校で木炭製造実習 一九四〇年一月二四日 東日
 274 青年教育に傾注し小平村青年学校長表彰 一九四〇年一〇月三〇日 東日
 275 南進熱で小平の拓南塾に入塾希望者六百人 一九四一年二月二三日 東日
 276 小平村に転職者むけの訓練所開校 一九四一年二月二八日 読売
 277 青年学校東西に分れて演習 一九四一年一月二四日 東日
 278 転職者向けの小平勤労訓練所開校 一九四二年一月一三日 東日
 279 小平青年学校などが学校農園を開墾 一九四二年一月一四日 東日
 280 第二回東部国民勤労訓練所入所式 一九四二年三月三日 東日
 281 小平村国民勤労訓練所の同窓生が八王子で訓友会結成 一九四二年四月一六日 東日

282 田無青年学校ではビルマ語、マレー語の教育 一九四二年四月一九日 東日
 283 岸商相、東部勤労訓練所を激励 一九四二年五月七日 読売
 284 岸商相、転業戦士練成の東部訓練所を訪問 一九四二年一〇月四日 東日
 285 産業小戦士の手記 一九四四年一月二五日 読売

三 大学

286 商大生の箱根土地への不満爆発 一九三七年三月三十一日 読売
 287 商大、小平移転十周年を祝う 一九三七年五月一六日 東日
 288 大陸経営の人材育成に拓殖学校と拓大が合併 一九三九年九月二六日 東日
 289 日米の学生が津田塾で討論会 一九四〇年六月八日 東日
 290 外国留学生ともども商大を卒業 一九四一年三月二九日 東日
 291 戦時下で繰り上げ卒業、そして入営 一九四一年一〇月一七日 東日
 292 神宮競技場で戦地へむけて学徒壮行会 一九四三年一〇月二二日 毎日
 293 商大も産業大学に改称し理工を優先 一九四四年九月三〇日 毎日

第七節

生活

一 物資の統制

294 タクアンの塩不足、やっとな配給 一九三八年一月二六日 東日
 295 新体制に際し国民服を着用のこと 一九四〇年六月六日 東日
 296 米の使用を抑制せよ 一九四〇年七月二一日 東日
 297 配給米の通帳制実施 一九四一年三月二六日 東日
 298 イモの統制配給 一九四一年九月一七日 東日
 299 三割から五割高のヤミ値 一九四二年八月五日 東日
 300 国民は買うな、遊ぶな、飲むな、吸うな 一九四三年一月一九日 毎日
 301 すべての生活を節約し戦争遂行 一九四三年二月一六日 読売

二 活動する青年と女性

302 小平愛国婦人会発足 一九三七年一月二三日 東日
 303 小平愛国婦人会の活動 一九三八年八月二五日 東日
 304 興亜のために青年団を強化せよ 一九三九年一月二六日 東日
 305 北多摩青年団が防空壕掘り講習会 一九四一年一月二二日 東日
 306 北多摩青少年団の結成大会 一九四一年三月一九日 東日
 307 女性が郵便集配人に 一九四二年九月二七日 東日
 308 小平村で日本婦人会支部結成 一九四二年一月二五日 読売
 309 小平農業会でも女性課長誕生 一九四四年七月一日 毎日

三 医療・衛生

310 小平で赤痢発生 一九三七年七月一七日 東日
 第八節 世相・事件
 311 リヤカーでスイカ泥棒 一九三七年八月二七日 東日

318317 316315 314313 312

トラックで米俵を盗む	一九三九年一月二一日	東日
金魚売の春を告げる	一九四〇年三月一日	東日
小金井桜を北京へ送る	一九四〇年三月三日	東日
流言蜚語を取り調べ	一九四〇年五月二五日	東日
婦人団体が中元廃止し貯蓄励行	一九四〇年六月一五日	東日
悪徳食堂、飯の量をごまかす	一九四一年五月九日	東日
流言やデマの取締り	一九四四年一月二七日	毎日